

令和5年
62号

ICHIINOKAI VOL.62



●目次●

- ◇総合施設長あいさつ.... 1
- ◇改修を終えて
竣工式..... 2,3
- ◇行事ギャラリー
おひさまといっしょに
テイクアウト昼食
1寮お楽しみ会
職員日記..... 4,5
- ◇がんばってねの会
ありがとうの会
セルフ研修
編集後記..... 6

いちいの会だより



総合施設長 清本 健二郎

6月に理事会、定時評議委員会、事業報告、決算を行い、無事に令和4年度が終了しました。皆様ありがとうございました。

現在、いちいの会は職員数が100人を超え、世の中の変化に順応しながら、規模が少しずつ大きくなっています。一方で、開所から在籍する職員は片手で数える程の人数となりました。

利用者の方々も年を重ね、生活環境に不便さを感じるようになりました。それらを改善するため施設の改修工事を行いました(次のページに掲載)。今回の改修工事で終わりではなく、今後も先の生活環境の青写真を描く必要があります。そのためにも、開所以前の法人立ち上げのお話に触れておきます。

いちいの会は平成2年(1990年)に都内の障害児の療育機関にお子様を通わせていた親御さんが集まり、「親亡き後、子供が安心して生活できる環境をつくりたい」という思いで活動を始めました。

2年間をかけ、茨城・神奈川・北海道・東京・千葉・静岡の9か所を施設見学しました。施設建設の土地確保のため、帯広・伊豆大島・八王子・つくばのそれぞれの場所で現地調査、話し合い、折衝を行い、検討をしました。そして、6年の年月をかけ、現在の野田市(旧関宿町)に決定しました。

この6年間の活動詳細については、2代目理事長の西脇さんが記録を残してくださっています。ここには親御さんの思いを知る大切なことが記されていますので、職員の皆さんには改めてお話をさせていただきます。

平成28年の社会福祉法改正により、経営組織のガバナンス強化が謳われました。法人内の健全な組織運営、法令、規則、規定を遵守し、法人理念に基づき、事業を進めていく大切さに併せて、これからの法人の未来を描く際に、先人の行い、想いを繋いでいかなければなりません。「人命を預かる」、「人生に寄り添う」組織になるために、新しく法人の仲間になった職員の方々にも、継続して法人の成り立ちを伝えていく所存です。

～くすのき苑 改修を終えて～

ワークショップくすのき 施設長 大谷 篤司

平成12年(2000年)にくすのき苑が開所し、今年で23年目を迎えました。くすのき苑で暮らす利用者の方々も同じように年を重ねました。23年という月日は、とても早く感じましたが、その年月はとても長く、ふと気が付くと体力は衰えていきました。

開所当時から入所されている方々は高齢化が進み、体力的な衰えはとても顕著であります。足腰が弱り、歩くことが容易ではなくなり、車いす生活になった方がいます。入浴時には、足腰が衰えた利用者の方を3人がかりで支えながら介助をしていました。そして、車いすを利用する方が増えた食堂はキャパシティが足りなくなっていました。また、食べる力が衰え、食事を刻むなど、ミキサーにかけて食べやすく加工して提供することが必要な方も増えてきました。他にも、支援上種々の環境的な課題が増えてきたことと、設備も20年が経過し経年劣化が激しくなってきたこともあり、今回の大規模な改修に至りました。

工事期間中、一番大変であったところは、利用者の方々が生活しながら大規模な改修工事をしていくことでした。食堂が使えなくなり、廊下の一部や空いている居室を仮食堂として利用するなど、浴室やトイレも一部使えなくなる期間があり、日課の変更や使える浴室やトイレが点々と変わっていきました。それに加え、工事場所が直結していることから、振動と騒音が廊下に鳴り響いている状況もありました。施工者のライト工業様も苑の環境に配慮していただきながらの工事であったので、大変だったと思います。そこで支援する職員たちも安全に利用者の方々が生活できるように、万全の注意を払いながら奮闘していました。そしてなにより、利用者の方々が生活環境の変化に混乱することなく、過ごすことができました。

たくさんの方々の頑張りがあり、令和4年9月の着工から9ヶ月かかった工事は、令和5年5月22日に無事引き渡しの日を迎えることができました。

通常の日課に戻り、利用者の方々が安心して暮らせる環境は一部整備することができました。今回、大規模な改修をおこないましたが、他にも環境的に解決しなくてはならない課題は山積です。法人として、次の一手を考え出さねばなりません。

そして、環境を改善したうえで、それをどのように上手く運用していくかは、支援者次第です。より一層気を引き締めながら、皆が笑顔で安心安全に暮らせる場所を作れるよう邁進していきたいと思います。



厨房

食堂



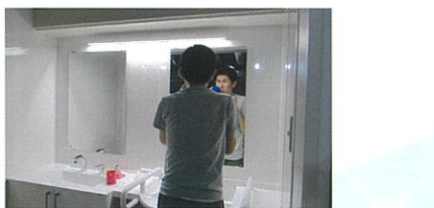
洗濯室



新浴室



給湯室



竣工式



竣工式も無事に終わり、関係各位の皆様へ感謝状を贈呈致しました。

祭 行事ギャラリー 氷

行事の様子

おひさまといっしょに

6月17日（土）関宿総合公園体育館にて新型コロナウイルス感染症対策の為に自粛を余儀なくされていた、「おひさまといっしょに」が4年ぶりに開催されることになり、ワークショップくすのきの利用者さんと元気に参加してきました。

感染症対策として規模は縮小されていましたが、ボランティア・支援団体様方のご協力により、参加者の方々ほどの競技にも楽しそうに参加していて、以前のように地域交流の場として大いに盛り上がっていました。来年の参加を今から楽しみにしています！

ワークショップくすのき 生活支援員 堀池 豊



テイクアウト昼食

ワークショップくすのきで毎月行っているテイクアウト昼食。

7月は夏の風物詩とも言える、冷やし中華をバーミヤンで注文しました！

彩り鮮やかな冷やし中華を前に、利用者の皆さんは素敵な笑顔を見せてくれました。



6月:あじさいの貼り絵

1寮お楽しみ会

7月:アイスクリームパーティー

今年も月1回のお楽しみ会！梅雨の時期ということで、考えた末にあじさいの貼り絵に決定しました。花好きの職員が描いた下絵に、千切った色画用紙を貼る。枠に囚われることなく自由に貼ることが出来るので、利用者さん同士協力して楽しんでいました。

利用者さんと職員で一つの物を作り上げる達成感。普段見ることが出来ない職員の器用さ。新しい発見と、作業とは違う充実した時間を過ごすことが出来ました。

主任生活支援員 内山 裕史



「暑い日に食べるアイスクリームは最高♪」をテーマに7月のお楽しみ会ではアイスクリームパーティーを行いました。ホイップクリームやカラスプレーなど、利用者さんに思い思いのトッピングをして頂き、オリジナルのアイスクリームを作成！今年初のアイスに皆さん「美味しい」と満面の笑みを浮かべ、職員も企画して良かったなと思える一日となりました。これから夏本番！暑さに負けず頑張りましょう♪

副主任生活支援員 中山 明日美



職員日記

7月1日、今日の天気予報は曇りのち雨。電車の中から外の様子を見ると、雲の合間に少し青空が見える程度。雨の心配をしながら家族と江の島へ出掛けました。コロナ禍前までは夫婦で鎌倉にはよく遊びに行っていたので、少し足をのばして江の島散策を予定しました。長谷寺程ではありませんが、あちらこちらに青色のあじさいが咲いていて素敵でした。長い石段を登り、江島神社の参拝をし、期間限定の御朱印を頂く。竜宮城の切り絵がとても可愛い。サムエル・コッキング苑の草花を眺め、稚児ヶ淵まで行きました。江の島岩屋の入り口付近まで歩き、しばらく海を眺めて戻ってきました。思っていたより石段の上り下りが多くて、何度も休憩しながら歩きました。日頃の運動不足を痛感した日でした。

江ノ電にも乗りたくて、江ノ島駅から乗り、極楽寺に途中下車し、散策してから鎌倉駅まで乗車しました。江ノ電からの眺める景色は何度見ても癒されます。原由子さんの曲『花咲く旅路』を思い出します。鎌倉はまだ行ったことがない場所も沢山あります。御朱印帳を片手に、30年一緒にいる夫とこれからも旅行や散策を楽しんでいきたいと思えます。

生活支援員 山崎 陽子

間中さんありがとうの会



くすのき苑最後の日に、サプライズで素晴らしい会を開いていただきありがとうございました。利用者さんからの手紙やくすのき苑の思い出がたくさん詰まったフォトブック、本当に嬉しかったです。大切な宝物になりました。利用者さん達の顔を見ていると、会えるのが当たり前だったくすのき苑の方々に、これからはなかなか会えなくなってしまうかと思うと寂しくて寂しくて、私にとってくすのき苑は大好きな居場所だったんだと実感しました。職員の方々には、お忙しい中準備をいただき本当にありがとうございました。

私は、くすのき苑で途中育児休暇を頂いたりして、15年位働かせていただきました。いつも「間中さん」と声をかけてくれたり素敵な笑顔で返してくれ元気をくれる利用者さん、いつも優しく声をかけて下さった保護者の皆様、いつも私を支え助けてくれた職員の皆さん、そんな皆さんがいて下さったからこそ、ここまですることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

利用者さんのよりよい生活を常に考え、支援していくチームワークの良いくすのき苑の支援が好きでした。くすのき苑で学んだたくさんさんの事を、これからの新しい道で生かしていきたいと思います。

くすのき苑で過ごせた15年間は、私の人生で本当に素晴らしい幸せな時間でした。今まで本当にありがとうございました。

間中 朋子

原さんがんばってねの会



産休に入る職員の為、利用者さんと職員で元気な赤ちゃんを産んでほしいという願いを込めて花束を渡しました。しばらくのお別れはさみしいですが、次に元気な赤ちゃんとともに会えるのを楽しみにしています。



セルフ研修



これまで研修などで得た知識を更に深く調べたり、自分の学びたいことなどを他の職員に向けて発表する「セルフ研修」を昨年度より実施しています。障害に関することはもちろん、制度や車椅子への移乗等の実技を交えたものから、コミュニケーションや心理学に関すること等幅広く行いました。発表した職員、聞いている職員の双方にとって実のあるものになっているのはもちろん、「この人はこんなに資料を作るのが上手なのか！人前での話が流暢じゃないか！」など、上司の立場から見てもとても得るものも多い研修になっています。

くすのき苑 第2支援係長 伊藤 雅章

編集後記

風鈴の音を聴くと涼しく感じることはありませんか。実は体の表面温度が本当に下がるみたいです。これは、風鈴の音=涼しいと脳が勘違いして起こるようです。思い込みで体温が下がるなんて不思議ですね。(清宮)

「夏と冬どちらが好きか」という話はよくあるが、「夏が好き」と「暑いのが好き」とはまた別のものだと思う。夏は好きだが気温が高すぎるのも考えものだ。何事もほどほどが一番。(片倉)

社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑

〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121
TEL:04-7120-6667
FAX:04-7120-6668

発行責任者 総合施設長 清本 健二郎
編集 清宮・片倉
発行日 令和5年8月吉日

